

名作再読、拾い読み(11)

『エミリーに薔薇を』 ("A Rose for Emily")

小澤 文彦

ウィリアム・カスバート・フォークナー (William Cuthbert Faulkner, 1897-1962) はアメリカの小説家で、ミシシッピ州ニュー・オルバニーで生まれました。彼の生後暫くして一家はリブレーに移り、1902年にはミシシッピ州オクスフォードへ転居。彼は高校を中退し、銀行で働きます。第一次世界大戦の時は、カナダのイギリス空軍に入隊し、除隊後はミシシッピ大学の聴講生として大学新聞に詩や挿絵や散文を発表し始めます。1924年に詩集『大理石の牧神』を出版。その後シャーウッド・アンダーソンに勧められて小説を書き、『兵士の報酬』(1926)が完成します。これ以後、故郷の町をモデルとしたヨクナパトーフア郡ジェファソンを舞台とする小説、『サートリス』(1929)、『響きと怒り』(1929)、『サンクチュアリ』(1931)、『八月の光』(1932)、『アブサロム、アブサロム』(1936)を発表しました。ヨクナパトーフアの系統とは別に『野性の棕櫚』(1939)、『村』(1940)などを発表しますが、作品はどれも売れず生活のためにハリウッドでシナリオライターの仕事を続けます。1946年に批評家マルカム・カウリーによる選集『ポータブル・フォークナー』が出版され、これが契機となって彼は再評価され、以前の作品が次々と再版されることになりました。1950年にはノーベル文学賞を受賞。1955年に文化使節として来日し、長野でのセミナーに出席しています。1962年、64歳で亡くなりました。

今回は短編小説『エミリーに薔薇を』をお薦めします。時間の流れが絶えず遡って以前の出来事が語られるため理解しにくいところがありますが、衝撃的な結末は心を揺さぶります。

物語は、74歳で死んだミス・エミリーの葬式から始まります。彼女の家の内部は少なくとも過去10年間、町の人達の誰も見たことがありませんでした。彼女の死を悼みながらも好奇心を抱いて参列者が集まります。

誇り高い名家のため、また狂気の遺伝があるため、エミリーは30歳を過ぎても家柄に釣り合う結婚相手が見つからず独身を通していました。ほっそりした姿を白衣に包んだエミリーの傍らには常に厳格な父親がいたせいでもあったようです。父親が死んだ時、家族も居ず黒人の下男と二人だけ残された彼女は、父は死んでいませんと言って三日間父親の埋葬を拒み続けました。彼女を異常だと思ふ人はいず、却って同情心が集まりました。

その年の夏、歩道の舗装工事が始まり、ホーマー・バロンという北部の男が現場監督としてやっ

てきます。彼女はホーマーと付き合い始め、皆は二人が結婚するだろうと思いました。しかし、舗装の仕事が終わるとホーマーは彼女の元から立ち去ります。エミリーにとって彼は父親以外の唯一の男性でした。彼女はネズミ退治のために必要だと言って薬局から砒素を手に入れます。皆は彼女が自殺するかもしれないと心配しました。暫くして北部へ帰った筈のホーマーが台所の戸口からエミリーの家に入る姿が見られたのですが、その後彼の姿を見た人は誰もいませんでした。

彼女の家から悪臭が漂い始め、近所の家から苦情が市へ持ち込まれました。しかし、身分のある婦人に悪臭の件で注意することはできないと言って市長はその問題を取り上げません。結局、真夜中に数人の男達がエミリーの家とその周辺に石灰を散布して消毒し、漸く悪臭はなくなりました。この頃から町の人々は、男に捨てられたエミリーを気の毒に思うようになります。彼女は殆ど外出しなくなり、髪の色は次第に灰色を増し、遂にはつややかな鉄灰色になりました。

葬式の後で、過去40年の間、誰一人見たことのない階段の上にある部屋がこじ開けられました。その部屋は、至る所に埃が覆い被さっていましたが、明らかに飾り付けも調度類も新婚夫婦用になされていました。ネクタイ、丁寧に畳まれた男物の服、靴、脱ぎ捨てられたソックス……そして、ベッドの上にはミイラ化した男が抱擁の姿勢をとったまま横たわっていました。もう一方の枕の上には頭の形をした窪みができていて、そこに何か付いていましたが、よく見るとそれは一房の長い鉄灰色の髪の毛でした。

ミス・エミリーが、婚期を逃しかけた時に現れたホーマーと恋に陥りましたが破局に終わり、彼を殺してその死体と共に夜を共にしていたという話は、永遠を誓う美しい愛の物語として共感を呼ぶかも知れません。また、愛する人を殺してまでも自分の側に居させたいという愛のエゴイズム、愛の残酷さに恐ろしさを感じるかも知れません。愛について様々な受け止め方のできる小説です。

参考文献

1. William Faulkner, "A Rose for Emily" ("Collected stories of William Faulkner" Random House, 1943)
2. フォークナー著、西川正身訳『エミリーに薔薇を』(篠田一士[ほか]訳『アブサロム、アブサロム!』集英社、世界文学全集; 36、1974)

おざわ ふみひこ (係・情報サービス課)